



ヒロシマ70年前の8月6日

高橋 信雄

原水爆禁止2015年世界大会

核兵器のない平和で公正な世界のために

被爆体験の講演からの記録

講師 高橋信雄 (広島教育研究所事務局長)

はじめに

みなさん、こんにちは。紹介をしていただきました高橋といえます。私は1939年の1月に生まれました。あの日は6歳と8か月でした。ただ私は、その当時住んでいましたのは広島市ではありませんで、広島から50キロくらい離れた場所にいましたので、あの広島の前爆はかすかにピカの光を感じるといふ程度でして直接の被爆体験を持っていません。6年生になって

1950年に初めて広島に来まして、その後1957年から大学に入りました。広島に来た関係もあって就職が広島市内の中学校だったこともあって、ずっと広島に住んで今日に至っています。

今日お話をさせていただくのは広島の前爆は、どういふものだったのかということまでできれば身をもって感じとっていただける、よくいう言葉で言うところ追体験をしていただければというふうにして、この場に立たせていただいています。

さきほど、波田保子さんから話(被爆体験)がありました。1945年8月の6日8時15分、この広島で被爆をした人の数は30万くらいはいたのじゃないかと言われています。したがって、あの前爆がどういふ

ものであったかというのは、30万とおりあると思うのですね。それぞれが違う。それぞれが独自の被爆体験を持っていらっしやるわけで、30万とおりの被爆体験を総合化したものが、あの広島の被爆というものであったと思うわけで、この世界大会のこの分科会で2時間から3時間のなかでできることはありません。私がいゝろ被爆体験を持つていらっしやる方からお話を聴いたり、書物になってゝるものを読ましていただいたりして、総合化して広島の原爆つてこういゝものだったといゝことをまとめた話をさせていただけたらといゝうふうに思つてゝいます。

なぜピカなのか

被爆を体験された方は、ほとんどの方があれはピカドンだと、ほとんどの方が言います。ピカドンとは言ゝいません。ピカドンだと。どうしてピカドンなの。なぜピカドンでないの。それはほんとにピカッと光つただけなの。ピカッと。どれくらい光つたと思ゝいます。光つてゝいたのはわずか0・2秒。0・2秒だつたと計算上はされてゝいます。どうして0・2秒ピカッと光つたのか。

これは被爆体験をされた方の話といゝよりも科学的に少しその点について説明をしてゝきたいと思ゝいます。たとえば石油ストーブつてありますよね。1リッターの石油を、灯油を2時間かけて燃やす。そうすると熱エネルギーが出てきますよね。これを10分で燃やしたとしますね。2時間で燃やしたときに発生した熱エネルギーと10分間で燃やしたときに取り出される熱エネルギーは同じですよ。10分で取り出すこともできません。2時間で取り出すこともできません。もつとゆつくりやつて3時間かけて取り出すこともできます。短時間といゝのはいかに速く、いかに短時間に全エネルギーを取り出すか、これが爆弾といゝものなのです。

ノーベルといゝ人がゝまして、ノーベル賞といゝのをやつてますが、大金を儲けて、その儲けたお金を基金にしてやつてゝいるといゝのはみなさんご承知の通りです。あの人は火薬をいかに短時間で全エネルギーが取り出せるか研究をやつた人ですよ。彼が作り出した火薬は彼以前の火薬に比べて飛躍的に短時間で全エネルギーを取り出せるといゝ火薬だつたのです。TNT火薬とよく言ゝいますよね。高性能火薬、高性能といゝのは短時間でエネルギーをすべて放出させる。で

も無制限に短くすることはできません。

これをですね、飛躍的に短時間で全エネルギーを取
り出すことができるもの、これが核爆弾。広島に投下
をされたウラニウム235、いろんな説がありますけ
ども十数キロ詰め込んで落としたいといえます。そのう
ちのわずか700グラムが爆発をしたといわれている。
700グラム。その爆発に、言い換えたら全エネルギー
の放出に費やした700グラムのウラニウム235ど
れだけかかったか。1億分の1秒。桁が違う。1億分
の1秒でウラニウム235、全エネルギーを放出した
のです。そんな爆弾はないのです。なかったのです、
それまでは。

そこでですね、それまでと全く違う現象が起こった
のです。1億分の1秒で700グラムのウラニウム2
35は爆発しましたから、1億分の1秒で全エネルギー
を放出したのです。1億分の1秒の間だけ。700グ
ラムが爆発することで、それまでは想像もできなかつ
た超高温の火の玉を作ることができたのです。どれく
らいの高温になったと思いますか。100万度になつ
たのです。100万度という温度になる。すごいと思
いません。100万度の火の玉ができるのです。太陽

の表面と一緒に言われている。これはどのような火葉
を使ってもできないことなのです。その100万度の
エネルギーが誕生することによって火の玉ができるの
ね。その火の玉が100万度あったと言われている。

そのような超高温の火の玉ができるとその熱エネルギー
は光に変わるのである。それがピカドンです。火の玉が
できて、その火の玉が生み出した100万度のエネル
ギーが光に変わる。火の玉は0・2秒間100万度を
保ちます。そして光に変わるのである。光に変わって吹っ
飛んでいきます。すべての方向に。その光は物体に衝
突をするともう一度熱エネルギーに変わるのである。放
出した熱エネルギーが光に変わり、その光が熱エネル
ギーに変わる。固体とか液体とかにあたるともう一度
熱エネルギーに変わります。みなさんも太陽の光の元
はわかりますね。いまは真夏なものですから皮膚が痛
いほど熱くなりますよ。でも広島島の原爆はわずかに上
空600mのところまでそれが誕生したのです。太陽
の光線とはケタがちがいます。強力な光になりました。
この場所は爆心直下から800mくらいです。天
井もなにもなくて落ちてくるとピカッと光ったのです。
光はヒットしますね。光線が。熱に変わるのである。ど

れくらいになったと思いますか。7、800mですと3000度を超えています。原爆ドームがほぼ真下ですが、5000度を超えていたと言われています。鉄が溶けるのは1400度あったら十分なのですよ。どろどろになる。その倍以上の熱をあびます。どうなると思いますか。この辺りでは3000度を超えているのではといわれています。どうなると思いますか。燃え上がった、蒸発した、溶けた、いろいろ言いますね。でも燃え上がった人はだれ一人いなかったということ知ってますか。溶けてしまった、そういう人だれ一人いませんでした。

いま平和公園のなかに1個だけ被爆を体験した建物が残っています。元安橋を渡って最初の建物。レストハウスというのがいまあります。その当時は燃料会館とってましたが、この地下室で野村英三さんという17歳のおじさんが被爆をして這い出してきた。10分後にあの元安橋の上を見たという。橋ですからね、天井も屋根もありませんからね。まともにピカをあびました。あの橋が爆心から170mしか離れていません。そのときに見たその男の人を絵に描いて添え書きをしています。両手両足を上空に向けてぶるぶると震えて

いた。お尻あたりのズボンに火がついていたけれど、火ぶくれにはなっていたけれど、まだ生きてぶるぶると震えていた。これがピカで焼かれるということ。なんでそういうことになるか。それはですね、光エネルギーに変わりえたのはわずか0・2秒。ばつとヒットしますね。0・2秒が過ぎたら熱は0になるでしょう。わずか0・2秒の間に3000度なり4000度なり、あるいは2000度。あつた場所によつて違いますけれども、その熱が内側に届くわけですが、どんなに深く届いた人でも5ミリから6ミリを超えなかったといわれています。したがって、5、6ミリの間が超高温になるのです。そこを流れている血液、リンパ液がうんと沸騰するのです。わつとくるのです。でもそれよりも内側は、変化はしません。落ちてる落ちてると見たら、顔がずるっとむけますが、こちら側はなんにもならないですよ。なんでかというと同爆の光が当たらないから。太陽の光を見ててこっちは熱くなりますが、こっちは熱くなりません。そして皮膚をぶらぶらさせて、ずるずるずるずるずるずるずる落ちていきま

す。こう歩いていてこちら側はやけど。これがピカで焼かれるということなの。

だから一瞬にして燃え上がったということはありません。建物もそうです。広島街は圧倒的に木造の瓦ぶきの屋根が路地を並べていました。ポツンポツンと鉄筋コンクリートの建物があっただけです。板塀です。から圧倒的には何千度にもなるのですよ、板は。でも発火はしないですよ。みなさんでもそうでしょ。飯盒炊飯をやりませぬ。はじめから薪にマッチで火をつける人はいませんよ。燃えあがらないもの。紙をくしゃくしゃにしてマッチでつける。そうするとすいすいから裏も表も一瞬に4、500度になりますから薪に押し付けて、薪の表面はくすぶりはじめませぬ。でも燃えあがりませぬよ。薪は。薪の表面がくすぶりはじめますよ。燃え上がりませぬ。薪全体が5、600度を超えると発火します。蓄熱が必要なのです。広島ピカでは建物発火しません。

昨日、私、広島城で話をしてついでに話をしましたら、あの広島城である瞬間を迎えて今を生き延びている岡さんという人に久しぶり会いまして、その人と会ってちよつと話をしたんです。その人言っていました。鉄筋コンクリートの地下室にいて、外にでて広島街を見た。火の気はまったくなかった。すつこ

く静寂だった。そうなのです。あの原爆ドームも燃え上がるのですが、でも原爆ドームを9時に見た人は、まだ燃えてませんでした。10時ころに見た人の絵がたくさん残ってますけれど、窓から火が噴き出しています。数十分かかるので燃え上がるまでには、もちろん紙切れのようなものは一瞬にして火が付きますよ。しかし板や大きな柱というのは、時間がかからないと発火しない。でも半径2キロの中には1時間も経つと大火災になります。その火災のなかに閉じ込められちゃうとやがて生身の人間、生きたままであろうが死んでいようが発火をします。

やがて火災がはじまりますよ。逃げまどうわけです。だから圧倒的な手記のなかに被爆者がぼろぎれのように皮膚をたれさながら生きてさまよい歩いた。それでも火災からぬげだせないとききたまま発火しちゃう。これがピカというものなのです。

したがって、この瞬間のことが爆心に近ければ近いだけ、私あの時にこういう体験をしたよ、見たよという私たちに直接話を伝えることができる人はごくわずかしかいない。あの瞬間いまの平和公園のなかには大きな街が4つあったのです。広島一の繁華街があった

のです。3000人近い人が今の平和公園のなかであの瞬間を迎えたと言われています。生き残ることができた人、さつき話した野村英三さん一人を除いていない。したがって、彼の死があったら、生き残れなかったら元安橋の上で一人の男の人がお尻のあたりに火がくすぶっていたけれど、ぶるぶると両手両足を上にして震えていた。それが10分後の姿、たった伝えることはできなかった。

ドンとは

もうひとつドンといいますよね。ドンというのはね100万度の火の玉ができますよね。ひろがりますよね。すごいスピードでひろがります。広がるときにまわりの空気をたたくわけです。衝撃を与えるわけです。その衝撃音がドン。非常に広い面をたたくからドンという低音になる。狭い範囲ならパチン。そのときに広がるスピード、1秒間に10キロを超えていたのじゃないか。ドンとたたいた。音は1秒間に360mを超えて届きませんよね。音というのは波ですよ。空気の流れですね。空気は1秒間に360mを超えて移動できないということですよ。でも初速1秒間に10キロ

あったでしょう。どういう現象おこるでしょうか。ドンとたたく。衝撃音が出る。ドンとくると圧縮されるわけですよ。逃げられませんから。一定のところまで来ると。圧縮されます。空気はもともと重量持つてますが何10mの間が圧縮されます。すぐく重くて分厚い空気の壁ができます。その空気の壁が音速を超えてひっさいて吹っ飛んでいきます。これを衝撃波といいます。爆風じゃないです。衝撃波というのが生まれるんです。

さつき話をした岡さんが広島島の街を見たら広島島の街が消えていた。ほぼ真上から衝撃波がドンとたたきまされたのは鉄筋コンクリートの建物以外にはありません。原爆ドームはレンガづくりですから支えきれませんでしたね。ドームの部分は屋根を支えていた鉄筋は残っていますけれどもまわりの屋根を支えていた鉄筋は一本もないですよ。ドンと落とされたのです。真上のドームがなんで残ったかというドームのつべんは帽子がかぶされていたのです。原爆ドームの帽子の部分はあの朝きらきらと光っていたといいます。色は緑いろ、できてから30年たっていましたからドームは酸化をして緑青、緑色に変わっています。銅像はそ

うでしょ。緑色がいつぱいできますでしょ。輝いていたという。銅板の厚さが3ミリ程度しかなかったので、あの瞬間5千度の熱でなくなつたといわれている。隙間がいつぱいできましたから衝撃波がストンとなかにはいつたのです。もちろん鉄骨は歪んではいますよ、たたかれるから。でもまわりの屋根は20ミリを超える瓦が置いてあつたの。数ミリのあいだは一部が蒸発をし、一部は溶けましたが裏まで熱は届きませんから蒸発することはできませんでした。のこつてたのです。そこを一瞬にしてつぶされます。そういう衝撃波というものをつくるのです。この衝撃波は6キロをこえて吹っ飛んだといわれています。あらゆる方向に。したがって6キロ近く離れたところに住んでいたとします。ガラス窓があるとバチンとたたかれるわけです。ぐらぐらになって吹っ飛んでいきます。それほど威力をもつたのです。衝撃波というのは。レストハウスも鉄筋コンクリートでバーンと飛ばされるからひびだらけになるのです。雨がふると雨漏りが防ぎきれなくなつたものだから鉄板をおおつてありますよね。緑に塗つて。衝撃波にたたかれてぐしゃぐしゃになるのです。それだけ威力をもつていたのです。

中沢啓治の体験

そこで例えば「はだしのゲン」を描いた中沢啓治の体験は次のように語っています。

つぎのように書いている自分は、あの日学校に登校していたといえます。言っておきますが、広島市の学校はあの年、8月の6日はまだ夏休みになってなかつたのです。長崎は夏休みになってましたから、お父さんお母さんと命をともした子はたくさんいますけど、広島島の国民学校1年生から6年生、3年生から上は学童疎開で田舎にいつている人が多かつたですから、1、2年生が先生といつしよに被爆をする。先生と一緒に焼け死んでいる。そういう子どもはたくさんいました。その中の一人である中沢啓治は、学校に登校して校門の壁を背に立つてたという。コンクリートの壁、たつたので立つているとピカが当たらないので後ろが爆心なんだものだから、彼はやけど一つしませんでした。でも壁がたおれかかってきたといえますね。完全に倒れなかつたから彼は助かつたのですけれど、壁が押ししてきたといえます。

家には、お父さんとお母さんとお姉さんと弟がいた

といますね。家では大変なことが起こっていました。お母さんは家の外にいました。洗濯物を干すか庭掃除をしたりしたのでしよう。後ろが家でしたからお母さんはやけど一つしませんでした。弟も家の中にいて玄関のところのところにいたと彼の作品では描いてあります。グシヤときます。おおきな玄関を支えている梁がドンと落ちてくる。まともに落ちてくると即死したでしょうけれど、何か片方の側が先に落つこちちゃって空間ができた、その間に頭を挟まれていた。お母さんがなにごおこつたのだろうと家に帰ったら、玄関で弟が「痛いよう」とうめいていたといいます。お父さんは家の中にいて建物の隙間に挟まって、「わしはここで元氣や」と言つたといいます。姉は声が聞こえなくなつたといいます。たぶん梁の直撃をうけたのでしようね。ほぼ即死状態だつたと思う。そこでお母さんがまだ幼稚園の息子が頭を挟まれて、痛いよと泣いている。なんとか引き出してやろうと思えますよね。持ち上げようとしませぬ。落つこちてきている梁はびくともしなかつたという。足を持ってひっぱつたという。それでも抜けなかつたですね。お父さんをひきだそうにも屋根を持ち上げることはできません。あの劇画、漫画に

は何分くらいお母さんが息子を助けようと奮闘したか描いてないですが、たぶん小一時間くらいがんばつたのだろうと思います。そうするとゲンの弟が「痛いよ痛いよ、母ちゃん」と言つていたのが、「熱いよ」と絶叫したと言いますよね。発火したのです。蓄熱をして板や柱がばあと燃え上がってくるわけです。その奮闘しているお母さんを通りがかった人がいつまでもここでこんなことをやっているとおんたも焼け死ぬよ、ひっぱつて逃げてくれたといいます。どんな思いがしたでしょうね。自分の旦那さんもかわいい息子も生きたままで焼かれるということを知りながら目の前でどれほどのトラウマをつくることになるでしょうね。なんで私だけが助かつたのだろうか、なんであの時私は逃げていたのだろうか、生きて苦しめられることになる。

これがピカに続いて半径2キロの中で生まれたことなのです。その体験は、今はゲンの作品をとおして私の言葉で語らせていただきましたけれど、いろんな人がいる。私の知り合いの人でトイレに行つていた。屋根の天井がドンと落ちてくる。何がおこつたかわからなかつた。母親がはやく気づいたのでしよう。名前

をよんでくれた。でもお母さんも動けなかつた。自分も全く動けない。かすかに屋根の隙間から光が入り込んできた。あそこから出れるんだ、あそこまでいけば出れるんだ、お母さんがどんなふうに出出をしたのかわかりませんが、お母さんが声をかけて手をひっぱってくれた。幸いなことに動けたんですね。でもしばらくたつて家が発火した。いろんな人がそういう体験をします。

あるいは今の平和公園のあたりだと、逃げ出したときには周りが火災になつている。ふつう火災だとどちらかは燃えていないところがあるのですね。爆心で火災にあうと、すべて360度燃えているわけですから逃げようがない。

焼夷弾攻撃をされると水をかけて消すというのでコンクリートの防火用水、水をためておく大きなお風呂の桶のようなものがある。街角においてあるのですが、その中に入ったという。めろめろになつて入つたという人もいます。大けがをしてやつとの思いで抜け出して、火災から逃れられなくて入つた人もいます。火災がはじまる。5、6時間燃えた、もつと燃えたところもある。どうなつたと思います。防火用水のお水

が沸騰するのですよ。

もちろん川に逃れた人もいます。大けがをした人が川に逃れていきます。広島川はあの日、8時が大潮の満潮だったので。広島川は干満の差が4メートルもある。火災が始まつて川に逃げていく人は9時過ぎてですよ。引き潮になつていくわけです。流されるのです。溺死します。溺死すると必ず沈むのですね。沈みながら河口に向けて流されていく。水温が高いものだから夕方になるとお腹が発酵して腐るのでふくらむのです。ガスがたまる。浮くのです。何万という溺死者の死体が浮いてくるのです。夕方になると満潮がはじまるのです。押し流される。ほとんど6日に死体を引き上げることはできませんでしたから、ずーと流れていって、ここから2キロくらいまでさかのぼっていくと流れが止まるところがあるのね。行きだまり。死体が折り重なつて、並んでいた。その様子を描いたその当時2年生だった山本先生から、「広島川はあの日を境にして水の流れる川ではなく、死人の流れる川に変わった」。次の朝、干潮が始まるといいます。何往復もしたといえます。8月6日、夜、灯籠流しというのをやります、広島では。その人たちの無念の

思い、成仏してほしいという思いを込めて流すといわれています。

似島の治療とは

そういうことがおこるのです。それが一瞬にしておこったのです。それは大変なことになります。ひとつは、なんとかその場からのがれて助けを求めます。その人たちに空襲を受けて助けを求めるときには、ここに来いという指定する場所がありました。その一つが似島という島なのです。ここは陸軍が管理している島で、5千枚以上の毛布とか収容できるものが準備してあったといえます。逃げていったのです。逃げていくとその島だけでも1万人の被爆者が運ばれたという。そこに軍医さんがいた。戦後、私たびたびその人の話を聴かしてもらいました。戦後になつて京都に帰られて京都で開業されていました。西村幸之助さんというお医者さん、外科の先生でした。運ばれてくる被爆者に言葉もなかつたといえます。でもお医者さんです。なんとか助けてやりたい。助ける方法は一つだ。一つだと思つたという。例えば、ペローと皮膚が垂れ下がっている。皮膚を失っている。皮膚を失うということは

大変なことなのです。カッターナイフで皮膚が0センチマ何ミリ傷がつくだけでもほうっておくと化膿しませんか。皮膚を失つたところからばい菌がはいります。ペローと失うとどうなると思います。どんどんばい菌がはいります。ハエが止まつて卵を産むと卵が、皮膚がないですすから、肉にくつつくの。かじり始めます。ウジ虫のその痛さに耐えられない。ウジ虫はなん日かたつてからの話ですが、うじ虫がはいまわるのは。

運ばれてくる被爆者を見て、西村幸之助さんは思つた。このままではだめだ。そこからばい菌がはいつてやられてしまう。助ける方法の一つある。皮膚を大量に失っている腕がある。その腕を切断するのです。そして残っている皮膚を引っ張つて縫い合わせる。これが被爆者を助ける、自分ができる処置だと思つたという。ほぼ不眠不休で4日間がんばつた。ただ薬品庫を見たら麻酔薬がなくなつていた。でも縫い合わせる糸は何人分が残つていた。外を見たら部屋に入りきれないで治療を待つている被爆者がたくさんいた。衛生兵、いつてみりゃ看護師の人を呼んで言つたという。「麻酔はないけれど助かろうと思つたら手術しかない。麻酔なしでも手術を受けたいと思つたら奴がおつたら連れて

こい」と呼びかけたと言います。麻酔薬はないけれど手術を希望する人は手をあげなさいと言った。でも手を挙げた人は若い女の子以外にはいなかったといえます。十二〜三才から十四〜五才の若い、今で見たら中学生から高校生の1年生くらい、やってほしいという人がいるというのです。なんとしても、もう一度お母さんに会いたい、助かりたい。手術室に連れて入って、5、6人で手足を抑えたという。麻酔なしで手術するのですよ。今ならレーザーメスがありますが、その当時の手術というのはこぎりで骨を切るのですよ。助けたいと思う一心で西村先生はやったという。その時の悲痛な叫びは戦後何十年たつても忘れられないという。手術は成功したけれどその子は3日と生きれなかった。被爆者というのは大やけどしたり大けがしたりしただけでなかった。放射線のダメージはどうもできない。でも自分はその時に放射線が人体に与えるダメージについては知識がなかった。すごく西村先生を苦しめるのですね。なんで自分はあんなことをしたのだろう。どうせ助からない命をなんであそこまで苦痛を与えたのだろう、私にはそのときそういう知識がなかった、自分を言い聞かせようとしてもそれでよかったのかと

いう思いは言葉にはできない。

みなさん、30万人もの被爆者をつくってかろうじて即死を免れた人たちを、治療をすることすら満足にはできない。西村先生はいつもそう言っていました。原爆医療というものは存在できない。被爆者医療、なんでわからないんだ。被爆者医療というものがもし成立するとしたならば、被爆者をつくらないことですよ。

広島 の 戸 籍

それは似島の話ですけど、そういうことが広島、その周辺あるいは県を超えて、もうひとつ他の側面から大量の被爆者をつくるということはどういう意味をもつか。

峠三吉は、彼は被爆者ですね、原爆詩集という作品を残しました。原爆詩集の一番最初に載っている詩が「ちちをかえせ／ははをかえせ／としりをかえせ／こどもをかえせ／わたしをかえせ／わたしにつながる／にんげんをかえせ」そう書いてある。お父さんお母さんを原爆であの世に送られたわけで、爺ちゃんも婆ちゃんもあの世に送られた。子供もあの世に送った。私につながる人間、学校の友達、たったり隣近所のおじ

さんおばさんだったり、みんなあの世にいくのですね。だつてそうでしょう。今の平和公園は3千人くらいの人が入ってね生き残つたの一人だということですよ。

こんな死に方すると峠三吉のこの詩集の中に書いてある皆さんがどうなるか。「死ねないの」です。そのようになつてあのようになつた死は、誰からも死亡届けを出していかないの。ですから、爺ちゃん、婆ちゃん、父ちゃん、母ちゃん、わたし、こども、わたしにつながるすべての人を失うのです。どうですか。誰が出しに行きますか。出しに行くことができないじゃありませんか。戸籍上は死亡届けが出ませんから生存をすることに。広島市はいまでもそうですよ。戸籍上死んでないのです。でもどこをさがしてもその人は存在しないのです。「幽霊戸籍」というのですけれど、いまでもそういう人いっぱいいるのですよ。困るでしょ、広島市。税金払つて下さい、あなたの固定資産税ちゃう、だいたいって、どこにもいませんし。投票用紙受け取ってくれる人もいない。行政上やらないといけない。国民健康保険、受け取れる年になりました。税金取ろうとして困る。広島市どうしよう。100歳を超えていくら探しても見つからない人は、あの日に死ん

だことにしましよと市長の職権で戸籍を抹消しましよ。10年に一度づつやっているのですよ。あの日0歳だつた私。あと30年は生きてもらわないといけない。

ほかのことでいえば平和公園は公園ですね。公園にはね、骨を埋めてはいけませんよ。どこの公園も骨を埋めているところないでしょ。広島市の平和公園だけです。骨が埋めてあるのは、原爆供養塔というのがありますから、ごらんになつてください。ここには今7万をこえる人の骨が収納されています。ということでは7万人分の骨、だれの骨かがわからない。ひきとりにくる人がいない。そういう死に方をするのですよ。

核兵器の非人道性と国際条約

みなさん、そのような死にざまを強要される被爆、許されると思いませんか。ほかの兵器の歴史でいいとはいいませんよ。核兵器は特別な存在。戦後一貫して訴えてきました。私たちが体験をしたこの被爆。私のこの被爆体験。世界中どこに住んでいる人であろうと私と同じ体験をしてもらつては困る。世界に住んでいるたった一人私の体験。繰り返してほしくない。「ノーモア広島」つてそういう意味ですね。広島を繰り返す

な。わたしの体験をどこに住んでいる人であろうと、
どういう思想信条持っている人であろうと繰り返して
ほしくない。じゃ、どうしたら、それをくりかえさな
くてすむのか。たしかな保証はない。核兵器をこの地
球上から葬り去ることが一番の保障になる。「ノーモ
ア広島」その証しが核兵器の廃絶だ。そのことをこの
世界大会で一番のテーマとして開かれています。

その原点である70年前のあの広島、私は私流に皆さん
に体験をしていただきましたが一人でも多くの人に
きちんと体験してもらって自分の思いとしてあれは
許せぬ、自分はあるという体験を繰り返さない、そのた
めには核兵器を廃絶しよう。いまだすね。戦後70年
間に多くの日本国民そして世界の人々にそうだ、あれ
は許せない、しかし世の中は日本人の圧倒的に多くの
みなさんは原爆は使われては困る、許されない兵器だ
と思っている。でも政府は安倍さんはどういつてます。
原爆は必要なのだと行ってませんか？必要だと言ってま
す。絶対に原爆は手放してはならないと言ってます。
どこの原爆か、アメリカの原爆はなくなつては困ると
言つてませんか？いざ困るとアメリカの原爆で水爆で守つ
てもらうんだと言つてませんか？そういう関係にアメリ

カと日本はなっている。だからアメリカがどこかで戦
争をしたら自衛隊が出向いて行って何が悪いかと言つ
ているじゃないですか。国民と政府の意見がなかなか
一致していない。そうですねアメリカでも多くのの人た
ちが核兵器はなくす方がいいと言っている。でもオバ
マさんは核兵器のない世界と言いなながら、いま核兵器
を手放す気はないとずっと言い続けています。

でもこの70年間世界の人民が核兵器、広島長崎の体
験は二度と繰り返してはいけません。そのためには核兵
器の廃絶を、今年はおーストリアの政府がそうしよ
よと国連に加盟している政府の代表にあの非人道的な
あの体験を繰り返すことは許されない、このアピール
に賛同の署名をと呼びかけました。本当は安倍がやら
なければと思うのですが、でもオーストリアの政府は
それを呼びかけた。日本の政府もしぶしぶとサインし
ました。最初はサインをしませんでした。でもそこま
で行つたつてことは、すごいこと。同時に広島、長崎
を繰り返さない、核兵器は廃絶しようよと126か国
が賛同しました。でもその先があるのです。オースト
リアのアピールには。その後を実現するためにはこの
アピールに署名をしてくれたで終わりでなく、その思

いを実現するためにすべての国の政府が国際条約として核兵器は廃絶しよう。そのためのどういう段取りで核兵器を廃絶していかうかというスケジュールを、タイム予定を作るための国際会議を開こうよと言っている。これを5月のNPT再検討会議で、日本原水協も千人を超える代表団を送りましたけれど、アピールしてきたのです。でもまだ、2割の国が2割の国の政府が、国際条約を結んで核兵器の廃絶を実現できませんでした。身近な日本も日本の政府も国際会議を開いて、国際条約を結んで廃絶の道を賛成しなかった。アメリカの核に頼って平和を守るものだから、そんなのできん。みなさんどう思いますか。被爆者の思いと日本政府の思いってすごく乖離している。離れていると思いません。でも私たちが政府を追い詰めて、廃絶をするためには、国際条約があるのだ、それに同意をさせることなしには、広島長崎を繰り返さない確かな証しを手に入れることはできない。唯一の被爆国である日本政府は、その立場に立てばおおいに説得力を持つ、権威ある発言ができるのだと思いませんか。その道を大きく進んで行こう。政府をその立場に立たせていこう、それをこの世界大会は皆さんに担っていた。だいて私た

ちもがんばって一日も早くやりたいと思っています。世界は核兵器だけじゃなくて、非人道的な兵器はたくさんあります。毒ガスもそうです。細菌兵器といつて、細菌をばらまく兵器もあります。生物兵器といつて、最近有名になったのは地雷。でもこの3つは、国際条約ができていないということ知ってますか。それよりもはるかに非人道的であるといわれる核兵器が、国際条約で禁止されていないというのは人類の英知を疑う。そういう意味ではこの暑い広島に集まっていたら、多くの取り組みを交流しながら一日も早く日本政府をその立場に立たせ国際条約が締結をされる、少なくとも被爆者が目の黒いうちに実現をしたい。だって今被爆者の平均年齢は80歳を超えている。緊急な問題なのです。被爆者にとってみれば、それは私たちの問題と同じです。

さいご

そういう意味でこの分科会では午前中は波田さんの被爆体験と私の全部まとめたの話はできませんでしたが、ひとつの広島の話、午後はフィールドワークに出た。だいてしっかりと1945年の8月6日に原爆が

落とされたのだというところではなくて、もしあの時広島、長崎にいたらどうなっただろう。そこに自分を重ねて広島と長崎を体験してもらいたい。追体験です。それが核兵器を廃絶をさせていく大きなエネルギーになるというふうに考えています。私が言ってるのじゃなくて、この原子爆禁止世界大会実行委員会とそれに参加していただいている皆さんの思いだということ、ここではお互いにその確認をしていこうではないかということです。本の紹介をします。

『観光コースでない広島』という本。高文研。「ひろしま」。800円。

資料の袋に「かき船反対の署名」入っていませんか。元安川は一番死体が流れた川、一番多くの人が沈んだ川なのです。そこへ料亭の木船を作って一杯やろうと、儲かればいい、いま工事をやっているのが見えると思います。それは許せない。船を文化として守っていいくというのは、それはそれでいいとしても、松井市長と業者が結託をしまして、松井市長がこれを推進しているのです。おまえ言ってることと違うのじゃないか、何回か闘いをやったのですが、まだいうことをきかない。みなさんにお力をお借りしたいということで、

できましたら署名をしていただいてお帰りになって下さい。午後の部に出でただきたいと思えます。ありがとうございました。

(文責・伊藤英世)